

# 地域共生活動の取り組み状況について

- ▶ 新型コロナウイルスの影響により、全戸訪問等の活動が困難な中、昨年度より地域共生活動として、地域の皆さまからご要請をいただいた地域行事などに所員が参加
- ▶ 今年度は所員の5割が地域共生活動を行うものとし、7月31日時点で延べ約300人が地域の皆さまと一緒に活動を行っている状況

## ＜主な活動実績＞ ※ 7月31日時点

- ・ コミュニティセンターと連携した清掃活動
- ・ 市内の海岸清掃
- ・ 夢の森公園のアジサイロード整備
- ・ 柏崎港観光交流センター「夕海」イベント運営補助 など



柏崎港観光交流センター「夕海」イベントの様子



田尻コミュニティセンター除草作業の様子



荒浜町内会による海岸清掃の様子



夢の森公園アジサイロード整備活動の様子

# 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(2021年8月)

2021年8月12日

## ① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明
			9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	
1号機 110万kW (1985.9.18運開)	停止中 第16回定期検査中 定検停止期間:2011.8.6~	第15回 2007.5.4 ~ 2010.8.4 停止期間 2007.5.4 ~ 2010.6.6 (1130日) (原子炉起動2010.5.31)	第16回定検による停止												<燃料の管理> ○ 燃料は、現在、1~7号機の使用済燃料プールで保管し、安定冷却を継続中。 ○ プール水温は、管理上の上限値(65℃)を超えないように管理しており、仮に冷却が停止したとしても、4日以上は管理上の上限値に達しないものと評価しています。
2号機 110万kW (1990.9.28運開)	停止中 第12回定期検査中 定検停止期間:2007.2.19~	第11回 2005.9.3 ~ 2006.5.9 停止期間 2005.9.3 ~ 2005.12.25 (114日) (原子炉起動2005.12.22)	第2回定検による停止												
3号機 110万kW (1993.8.11運開)	停止中 第10回定期検査中 定検停止期間:2007.9.19~	第9回 2006.5.12 ~ 2006.9.15 停止期間 2006.5.12 ~ 2006.7.27 (77日) (原子炉起動2006.7.24)	第0回定検による停止												
4号機 110万kW (1994.8.11運開)	停止中 第10回定期検査中 定検停止期間:2008.2.11~	第9回 2006.4.9 ~ 2007.1.11 停止期間 2006.4.9 ~ 2006.12.14 (250日) (原子炉起動2006.12.11)	第10回定検による停止												
5号機 110万kW (1990.4.10運開)	停止中 第13回定期検査中 定検停止期間:2012.1.25~	第12回 2006.11.24 ~ 2011.2.18 停止期間 2006.11.24 ~ 2010.11.25 (1463日) (原子炉起動2010.11.18)	第13回定検による停止												
6号機 135.6万kW (1996.11.7運開)	停止中 第10回定期検査中 定検停止期間:2012.3.26~	第9回 2010.10.31 ~ 2011.3.9 停止期間 2010.10.31 ~ 2011.1.26 (88日) (原子炉起動2011.1.23)	第0回定検による停止												
7号機 135.6万kW (1997.7.2運開)	停止中 第10回定期検査中 定検停止期間:2011.8.23~	第9回 2010.4.18 ~ 2010.7.23 停止期間 2010.4.18 ~ 2010.6.28 (72日) (原子炉起動2010.6.26)	第0回定検による停止												

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

## ② 発電所設備利用率(%) (7月末現在)

7月	0.0%
2021年度累計	0.0%
運転開始後累計	42.6%

## ③ 発電所発電電力量(万kWh) (7月末現在)

7月	0
2021年度累計	0
運転開始後累計	87,487,412

## ④ ドラム缶発生量(本) (7月末現在)

当月発生本数	84
貯蔵庫累積貯蔵本数	29,953
貯蔵庫保管容量	45,000

## ⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (2021年度第1四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	13,734
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

## ⑥ 従業員登録データ(人) (8月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率※1
県内	柏崎市	821	2,321	55%
	刈羽村	79	225	5%
	その他	141	1,048	21%
	小計	1,041	3,594	80%
県外		128	1,002	20%
合計		1,169	4,596※2	-
		5,765		100%
協力企業社数(社)		694		

※1 端数処理のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

※2 参考：8月2日の協力企業構内入構者数2753人

## ⑦ 来客情報(人) (7月末現在)

	7月	年度累計
地元	622	3,564
県内	438	1,667
県外	201	601
国外	6	14
合計	1,267	5,846

## ⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
8月26日	定例記者説明会
9月9日	次回定例所長会見

インターネットホームページアドレス  
[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/kk-np/index-j.html](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/kk-np/index-j.html)

東京電力ホールディングス株式会社  
 柏崎刈羽原子力発電所  
 広報部  
 0257-45-3131(代)

# プレス公表（運転保守状況）

2021年8月12日  
東京電力ホールディングス株式会社  
柏崎刈羽原子力発電所

発生日	2021年7月26日		
号機	4号機	件名	取水口付近（屋外）における体調不良者（熱中症）の発生について（区分:Ⅲ）
①	<p>【概要】 2021年7月26日、4号機取水口付近（屋外）において取水口設備の点検作業に従事していた協力企業作業員が体調不良を訴えたことから、午前11時30分に業務車で病院に搬送されました。 病院での診察の結果、持病に起因する可能性があることから、同日より検査入院しました。 8月2日、当該作業員は熱中症と診断され、体調が回復したことから、同日退院いたしました。</p> <p>【対応状況】 当該の協力企業作業員は、熱中症対策としてこまめな休憩や水分補給を行っていましたが、熱中症と診断されたことから、当社社員および協力企業の方々へ業務開始前の体調確認や、休憩、適度な水分および塩分等のミネラル補給を心がけるよう、あらためて注意喚起を行います。</p> <p style="text-align: right;">（2021年8月3日にお知らせ済み）</p>		

# プレス公表（運転保守状況）

2021年8月12日  
東京電力ホールディングス株式会社  
柏崎刈羽原子力発電所

発生日	2021年7月29日		
号機	—	件名	発電所構内（屋外）における体調不良者（脱水症）の発生について（区分:Ⅲ）
②	<p>【概要】 2021年7月29日、発電所構内（屋外）において防護設備の点検作業に従事していた協力企業作業員が、体調不良を訴えたことから、午前10時51分に業務車で病院に搬送されました。 その後、病院で脱水症と診断され、点滴の処置を受けたのちに帰宅しております。 なお、本人に身体汚染はありません。</p> <p>【対応状況】 当該の協力企業作業員は、熱中症対策としてこまめな休憩や水分補給を行っていましたが、脱水症と診断されたことから、当社社員および協力企業の方々へ業務開始前の体調確認や、休憩、適度な水分および塩分等のミネラル補給を心がけるよう、あらためて注意喚起を行います。</p> <p style="text-align: right;">（2021年7月29日にお知らせ済み）</p>		

## 【参考】プレス公表 継続対応件名リスト

---

号機	6号機	件名	非常用ディーゼル発電機の定例試験中の不具合について（区分：Ⅲ）	発生日	2020年10月5日
号機	—	件名	7号機ガスタービン発電機車からの油漏れについて（区分：Ⅲ）	発生日	2021年5月12日

～柏崎刈羽原子力発電所 不適合審議状況（2021年7月審議分）～

表① 【2021年7月分 審議・完了件数】

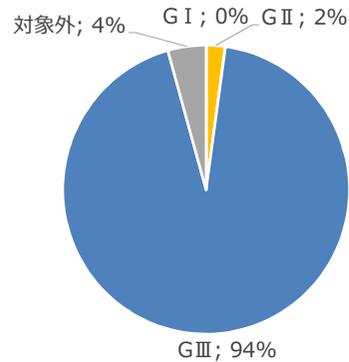
	審 議	完 了
総 計	93	105
G I	0	0
G II	2	1
G III	87	104
対象外	4	-

表② 【2021年7月分 号機別審議件数】

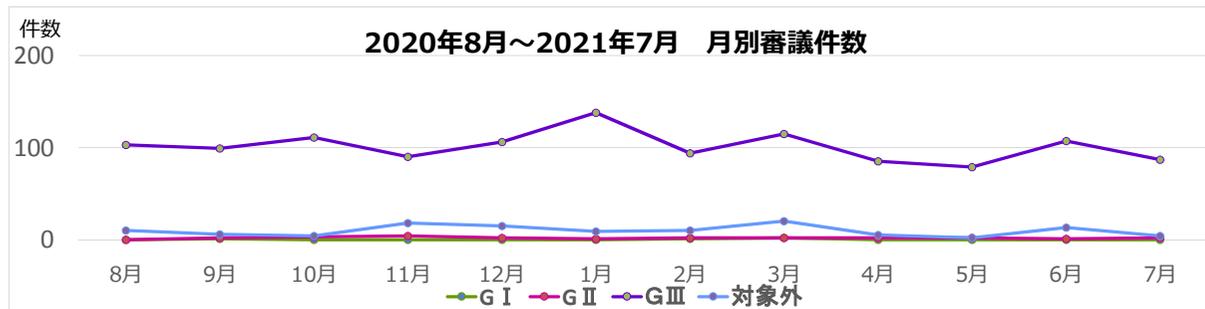
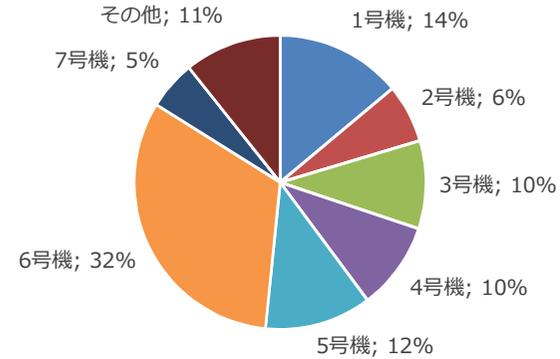
	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機	7号機	その他	総 計
	定期検査中								
総計	13	6	9	9	11	30	5	10	93
G I	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G II	1	0	1	0	0	0	0	0	2
G III	12	6	8	8	10	30	4	9	87
対象外	0	0	0	1	1	0	1	1	4

(運転状況は2021年7月31日現在)

グラフ① 審議件数



グラフ② 号機別審議件数



表③ 【2010年4月からの累計件数】

	審 議	未 了
総 計	21558	1836
G I	46	9
G II	923	72
G III	19278	1755
対象外	1311	-

※審議・完了件数については、PICoピア会議でのグレード判定・変更を反映したものです。そのため、別添の当該月における日々の不適合情報件数と相違する場合があります。

※構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計が100とならない場合があります。

## 不適合情報

2021年7月1日(木)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。

なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてください。

[https://www.tepco.co.jp/niiigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niiigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

1.G グレード 0件

2.G グレード 0件

3.G グレード 2件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	起動変圧器周辺(屋外)照明灯安定器収納箱の修理にともなう、電源ケーブル解線前の絶縁抵抗測定時、絶縁抵抗値が管理値を逸脱していることを確認した。当該電源回路の電源を停止。当該事象の原因を調査し修理。	2021/06/25	
2	6号機	電気設備点検工事の期間延長にともない、放射線作業計画書の変更申請を行ったが、管理区域入域時に使用するバーコードの期限表記を当社の承認前に修正してしまい、当該バーコードを使用して入域したため、退域処理時に警報が発生したことを確認した。当該事象の原因を調査。なお、作業員の被ばく線量に問題ないことを確認済み。	2021/06/28	

## 不適合情報

2021年7月2日(金)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

1. GⅠグレード 0件

2. GⅡグレード 0件

3. GⅢグレード 1件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	その他	荒浜側雑固体焼却設備プロパンガス供給設備改造工事において、安全処置の復旧時に監視制御盤ケーブル端子台のネジが空回りし、締め付けできないことを確認した。当該端子台を修理。	2021/06/25	

## 不適合情報

2021年7月5日(月)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

1. GⅠグレード 0件

2. GⅡグレード 0件

3. GⅢグレード 4件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	サービス建屋1階の管理区域退出モニタ1台に、無人状態にも関わらず「警数値異常」警報が発生したことを確認した。当該退出モニタの使用を禁止。当該事象の原因を調査。	2021/07/01	
2	2号機	放射性廃棄物処理系排水放射線モニタの洗浄中に、排水放射線モニタサンプリング系の異常を示す警報が発生した。現場確認の結果、超音波発信器(B)に異常を示すランプの点灯を確認した。当該事象の原因を調査し点検・修理。	2021/06/29	
3	4号機	非常用ディーゼル発電機(A)排気管伸縮継手の外観点検時、伸縮継手サポートに位置ずれを確認した。当該サポートの位置を修正。なお、非常用ディーゼル発電機の機能に影響なし。	2021/06/30	
4	その他	固体廃棄物処理建屋でのドラム缶搬入作業時、ドラム缶搬入扉(電動式)の開操作を行ったところ、開動作の途中で閉動作に自動で切り替わり、全閉となったところで動作不能となったことを確認した。当該扉を点検・修理。	2021/06/29	

## 不適合情報

2021年7月6日(火)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。

なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

1. GⅠグレード 0件

2. GⅡグレード 0件

3. GⅢグレード 5件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	屋外海側に設置している連絡トレンチ(タービン建屋～海水熱交換器建屋)上部チェッカープレートに腐食を確認した。当該チェッカープレートを通行禁止とし区画を実施。当該チェッカープレートを修理。	2021/07/02	
2	2号機	軽油タンク(B)軽油タンク戻り配管元弁の弁棒付け根部押さえナットが紛失していることを確認した。当該弁棒付け根部を交換。なお、軽油の移送に問題なく、非常用ディーゼル発電機の機能に影響なし。	2021/06/30	
3	3号機	鉄イオン注入設備電解槽出口流量計(原子炉補機冷却水(A)系熱交換器入口側)点検後の通水確認時、鉄イオン注入設備～原子炉補機冷却水系間の配管詰まり、および鉄イオン注入逆止弁の閉固着の発生を確認した。当該配管の清掃および当該弁を点検・修理。	2021/06/30	
4	6号機	管理区域入退域管理所にて協力企業作業員が、入域前にβγ線用警報付ポケット線量計液晶表示部の破損を確認した。当該線量計の使用を禁止。当該事象の原因を調査。	2021/07/01	
5	その他	荒浜側水処理設備空気圧縮機(A)切替時、停止した圧縮機(A)の後部冷却器(A)回収水流量計の指示値がゼロとしないことを確認した。当該流量計を点検・修理。	2021/07/01	

## 不適合情報

2021年7月7日(水)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

1.G グレード 0件

2.G グレード 0件

3.G グレード 4件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	中央制御室内、監視用テレビモニタ装置のモニタ画面の消灯、およびカメラ操作ができないことを確認した。当該装置を点検・修理。なお、他の監視装置での監視可能を確認済み。	2021/07/03	
2	2号機	軽油タンク(A)軽油タンク戻り配管元弁の弁棒付け根部押さえナットが紛失していることを確認した。当該弁棒付け根部を交換。なお、軽油の移送に問題なく、非常用ディーゼル発電機の機能に影響なし。	2021/07/03	
3	4号機	原子炉補機冷却海水系ポンプ予備機確認運転後の原子炉補機冷却海水系ポンプ(D)停止時、吐出圧力計の指示不良を確認した。当該計器を点検・修理。なお、原子炉補機冷却海水系ポンプ吐出圧力は他の計器にて監視可能であり、機能に影響なし。	2021/07/02	
4	5号機	屋外に設置している純水タンクNo.3 - No.4間の階段に腐食の発生を確認した。当該階段を使用禁止とし区画を実施。当該階段の腐食箇所を交換。	2021/07/03	

**不適合情報**

2021年07月08日(木)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

1. GⅠグレード 0件

2. GⅡグレード 0件

3. GⅢグレード 6件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	タービン建屋空冷チラー(B)冷却水入口温度計の動作不良により、タービン建屋空冷チラー(B)が運転できないことを確認した。当該温度計を点検・修理。	2021/07/02	
2	1号機	タービン建屋空冷チラー(F)冷却水入口温度計の動作不良により、タービン建屋空冷チラー(F)が運転できないことを確認した。当該温度計を点検・修理。	2021/07/02	
3	3号機	西側ポンベ建屋(非管理区域)主復水器連続洗浄装置制御盤室天井2箇所より、雨漏れの発生(水溜まり跡)を確認した。制御盤への被水なし。当該箇所を点検・修理。	2021/07/05	
4	3号機	所内蒸気系1ラインドレトラップ(凝縮水を排出する装置)バイパス弁にシートパスの発生を確認した。当該弁を点検・修理。	2021/07/05	
5	6号機	原子炉建屋4階(管理区域)にて、スキマーサージタンクへ仮設ホースを使用している純水(汚染のない水)補給時、取付部からホースが外れ純水(約50リットル)の漏えいを確認した。ふき取り実施。ホース取付時のホースバンド締め付け不良と推測。当該取付部をコネクタタイプへ変更。	2021/07/03	
6	その他	5～7号機東側道路脇の散水用貯水池に接続している排水側溝が損傷していることを確認した。当該エリアを立ち入り禁止。当該排水側溝を修理。	2021/07/05	

**不適合情報**

2021年7月9日(金)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

1. GⅠグレード 0件

2. GⅡグレード 0件

3. GⅢグレード 5件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	放射性廃棄物処理設備区域給気ルーバー室の床グレーチングに腐食を確認した。当該箇所への立入禁止および注意喚起を実施。当該グレーチングを点検・修理。	2021/07/06	
2	1号機	No. 3高起動変圧器遮断器用ガス絶縁開閉装置点検時、白相シリンダーの油圧が管理値を逸脱していることを確認した。当該シリンダーを交換。	2021/07/07	
3	2号機	換気空調補機非常用冷却水系冷凍機(D)油ポンプ側ドレンポットに、油が溜まっていることを確認した。調査の結果、メカニカルシールからの油漏れ量が許容値を超えていることを確認した。冷凍機の運転を(D)から(B)に切替実施。当該メカニカルシールを交換。	2021/07/06	
4	5号機	原子炉建屋地下1階(管理区域)南側二重扉の点検時、外側扉および内側扉のパッキンに損傷および空気の流れを確認した。当該扉の使用を禁止。当該パッキンを交換。なお、原子炉建屋の負圧は維持されており、機能に問題なし。	2021/07/06	
5	6号機	原子炉建屋地下2階(管理区域)南東通路で作業に従事していた協力企業作業員の、β・γ線用警報付ポケット線量計電子式線量計が鳴動したため、放射線管理員へ連絡し退域処理を行ったところ、γ線0.01mSvが記録されていた。線量計の異常と判断し、当該線量計の使用を禁止。なお、作業場所の線量当量率は0.001mSv/h未満であり、同一作業の他作業員の線量計測値はγ線0.00mSvであったことから、当該作業員の線量を0.00mSv未満と評価。	2021/07/06	

## 不適合情報

2021年7月12日(月)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてください。

[https://www.tepco.co.jp/niiigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niiigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

### 1. G I グレード 0件

### 2. G II グレード 1件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	原子炉安全の観点から見たグレード
1	1号機	No. 3高起動変圧器主保護(2系)盤の点検時、試験装置(模擬遮断器)のケーブルをテスト端子に挿入すべきところ、誤ってデータ出力用端子に挿入してしまい、中央制御室に地絡警報を発生させたことを確認した。当該ケーブルをただちに取り外し、警報の復帰を確認。当該事象の原因を調査。	2021/07/08	—

### 3. G III グレード 5件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	154kV開閉所建屋の螺旋階段に腐食および屋上排水溝に詰まりを確認した。螺旋階段の使用を禁止。当該階段の修理および排水溝を清掃。	2021/07/07	
2	2号機	原子炉冷却材浄化系ポンプ(B)の起動時、ポンプ出口圧力指示値が中央制御室と現場計器で相違していることを確認した。当該事象の原因を調査し計器を点検・修理。	2021/07/07	
3	5号機	中央制御室において、排ガス再結合器/脱湿塔温度記録計への注油作業時、印字部の固着により記録できなくなったことを確認した。当該印字部を修理。なお、代替計器にて記録を実施しており記録に影響なし。	2021/07/08	
4	6号機	復水貯蔵槽鋼製ハッチ固定用ボルトの締め付け作業時、埋込みボルトが溶接部で折損したことを確認した。当該ボルトを修理。	2021/07/06	
5	その他	荒浜側焼却設備建屋排気筒放射線モニタ(A系・B系)制御盤警報の点検時、警報音は正常に鳴動するものの、警報ランプが点滅しないことを確認した。当該設備を修理。なお、荒浜側焼却設備建屋排気筒放射線モニタは正常に機能しており、監視に影響なし。	2021/07/07	

## 不適合情報

2021年7月13日(火)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

1. G I グレード 0件

2. G II グレード 0件

3. G III グレード 4件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	2号機	原子炉建屋付属棟地下1階(管理区域)南西エレベータ室の所内蒸気戻り系ドレン排出装置に動作不良を確認した。当該装置を点検・修理。	2021/07/08	
2	3号機	$\beta$ ・ $\gamma$ 線用警報付ポケット線量計(APD)の1年点検・校正時、4台の線量計に $\gamma$ 線指示値が判定基準を逸脱していることを確認した。当該線量計の使用を禁止。なお、前回の点検・校正以降の使用実績はなく、線量管理に問題なし。	2021/06/21	
3	3号機	$\beta$ ・ $\gamma$ 線用ポケット線量計(EPD)の1年点検・校正時、4台の線量計に $\beta$ 線指示値が判定基準を逸脱していることを確認した。当該線量計の使用を禁止。なお、前回の点検・校正以降の使用実績はなく、線量管理に問題なし。	2021/06/21	
4	6号機	タービン建屋地下中2階油清浄器室(管理区域)のプラント内放送設備(拡声装置)スピーカーが鳴動しないことを確認した。当該設備を点検・修理。	2021/07/07	

## 不適合情報

2021年7月14日(水)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

1. G グレード 0件

2. G グレード 0件

3. G グレード 4件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	4号機	中央制御室において、直流125V充電器盤(4A)の地絡警報が繰り返し発生していることを確認した。当該事象の原因を調査し点検・修理。	2021/07/11	
2	5号機	取水口除塵装置スクリーン洗浄水ポンプ(B)モーター上部カバー内に、鳥の巣を確認した。当該ポンプの使用を禁止。鳥の存在がないことを確認し巣を撤去。なお、ポンプ(A)での洗浄は可能で、機能に影響なし。	2021/07/11	
3	6号機	自動火災報知設備防災盤に、コントロール建屋1階(非管理区域)計測制御電源盤B送排風機室の感知器に異常を示す警報の発生を確認した。火報の発報はなかったが、念のため感知器の監視エリアに火や発煙がないことを確認。当該感知器を交換済み。	2021/07/08	
4	6号機	原子炉建屋大物搬入建屋の耐震強化工事にともない、同建屋基礎下の掘削を行ったところ、杭頭部の一部にコンクリートの浮き・剥離を確認した。当該事象の原因を調査し杭を修理。なお、大物搬入建屋の内扉は閉状態で、原子炉建屋の負圧機能への影響なし。	2021/07/09	

**不適合情報**

2021年7月15日(木)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

1.G グレード 0件

2.G グレード 0件

3.G グレード 5件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	500kV開閉所屋外排水ポンプの点検時、排水ポンプ(CP-7(1A・1B))の自動交互運転ができないことを確認した。当該自動切替装置を修理。なお、手動切替での運転は可能なため、排水機能に影響なし。	2021/07/08	
2	1号機	500kV開閉所屋外排水ポンプの点検時、排水ポンプ(CP-7(2A・2B))の自動交互運転ができないことを確認した。当該自動切替装置を修理。なお、手動切替での運転は可能なため、排水機能に影響なし。	2021/07/08	
3	4号機	原子炉建屋地下3階(管理区域)南西側二重扉の点検時、内側扉のパッキンに損傷および空気の流れを確認した。当該扉の使用を禁止。当該パッキンを交換。なお、原子炉建屋の負圧は維持されており、機能に問題なし。	2021/07/12	
4	6号機	コントロール建屋の屋上にある原子炉内蔵型再循環ポンプ静止型可変周波数電源装置用入力変圧器(A-1)ラジエーター側面下部に錆の発生および、油の滴下ならびに油溜まり(約2リットル)を確認した。拭き取り実施済み。受けパン設置済み。当該機器を点検・修理。なお、当該エリアから外部へ油の流出がないことを確認済み。	2021/07/13	
5	7号機	原子炉建屋1階(管理区域)北西側二重扉の内扉タッチセンサーの動作不良により、扉が自動閉しないことを確認した。内扉を手動で閉し使用を禁止。当該扉を点検・修理。なお、二重扉は閉状態のため、原子炉建屋の負圧機能に影響なし。	2021/07/13	

## 不適合情報

2021年7月16日(金)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてください。

[https://www.tepco.co.jp/niiigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niiigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

1.G グレード 0件

2.G グレード 0件

3.G グレード 3件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	5号機	原子炉建屋付属棟地下1階(管理区域)北東通路の非放射性スチームドレン移送系配管に微小な孔が発生し、水の滴下および水溜まり(約1リットル、汚染なし)を確認した。拭き取りおよびバケツを設置。当該配管を交換。	2021/07/13	
2	6号機	中央制御室内の防災盤に、原子炉建屋補機冷却系サージタンク(C)エリアの断線警報の発生を確認した。現場確認を行い、当該エリアに炎、煙のないことおよび検知器内に水が溜まっていたことを確認。当該検知器を交換済み。当該検知器内に水が溜まっていた事象の原因を調査。	2021/07/10	
3	6号機	換気空調補機常用冷却水系冷凍機(E)潤滑油レベルが低下していることを確認した。冷凍機(E)を停止。当該事象の原因を調査。	2021/07/13	

## 不適合情報

2021年7月19日(月)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

1. GⅠグレード 0件

2. GⅡグレード 0件

3. GⅢグレード 2件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	3号機	屋外に設置している非放射性スチームドレン移送系収集タンク防液提ピット排出ポンプ吐出配管(A)第三弁の開度位置検出スイッチの一部に腐食による損傷を確認した。当該部品を交換。	2021/07/14	
2	その他	屋外放射線監視装置での気体廃棄物管理日報作成時、7号機非常用ガス処理系排気筒流量のデータが、自動にて定格流量の2000m <sup>3</sup> /Hrと入力されるところ、1967m <sup>3</sup> /Hrと入力されていることを確認した。当該事象の原因を調査。	2021/07/12	

## 不適合情報

2021年7月20日(火)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

- 1. GⅠグレード      0件
- 2. GⅡグレード      0件
- 3. GⅢグレード      2件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	4号機	中央制御室内監視用テレビモニタ装置に、原子炉建屋最上階の監視カメラ映像輝度の低下を確認した。当該監視カメラを交換。なお、原子炉建屋最上階の監視は別カメラで可能であり、監視に問題なし。	2021/07/15	
2	6号機	中央制御室内の防災盤に、低電導度廃液系収集槽(C)室の断線警報の発生を確認した。現場確認を行い、当該エリアに炎、煙のないことおよび検知器周辺に結露発生のないことを確認。当該検知器を交換済み。	2021/07/15	

## 不適合情報

2021年7月21日(水)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

1. G グレード 0件

2. G グレード 0件

3. G グレード 9件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	5号機	ランドリー汚染測定装置(C)の使用準備中、測定器の異常を示す警報の発生を確認した。当該測定器を点検・修理。なお、他の測定装置が使用可能なため、測定業務に影響なし。	2021/07/14	
2	5号機	海水モニタの定期点検において、Cs-137(セシウム)線源照射による校正を行ったところ、測定値が下限側の判定基準を逸脱していることを確認した。当該計器を修理。なお、他の測定器で測定可能なため、監視に影響なし。	2021/07/14	
3	6号機	非放射性ストームドレン移送系排水ポンプ(B)の点検を2021年7月に予定していたが、夏期の結露水処理に必要となるため、点検時期を2021年11月に変更することとした。点検時期延長に伴う影響評価を実施。	2021/07/16	
4	6号機	サービス建屋換気空調補機常用冷却水系冷凍機(A)(B)の点検を2021年7月および9月に予定していたが、夏場の作業環境確保に必要となるため、点検時期を2021年11月に変更することとした。点検時期延長に伴う影響評価を実施。	2021/07/16	
5	6号機	中央制御室内の防災盤に、タービン建屋1階常用系送風機室の検知器断線警報の発生を確認した。現場確認を行い、当該エリアに炎・煙のないことおよび検知器周辺に結露発生のないことを確認。当該検知器を交換済み。	2021/07/16	
6	6号機	・ 線用警報付ポケット線量計の1年点検において、線測定値の判定基準を逸脱している計器(1台)を確認した。当該計器を使用禁止とし修理。	2021/07/14	
7	6号機	・ 線用警報付ポケット線量計の1年点検において、警報音が鳴動しない計器(1台)を確認した。当該計器を使用禁止とし修理。	2021/07/14	
8	6号機	中央制御室において、タービン建屋地下2階低圧ドレンポンプ室の床漏えい検出系の警報発生を確認した。現場確認を行い、当該エリアに漏えいのないことを確認。当該漏えい検出器を点検・修理。	2021/07/18	
9	7号機	原子炉建屋最上階(管理区域)蒸気乾燥器および気水分離器貯蔵プールの除染作業中に、当該プールの壁面にテープ片(約20cm)の付着を確認した。当該テープ片を回収。	2021/07/18	

**不適合情報**

2021年7月26日(月)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

1. GⅠグレード 0件

2. GⅡグレード 0件

3. GⅢグレード 7件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	6号機	サービス建屋ホットラボ室の給気温度計に指示不良を確認した。当該計器を点検・修理。	2021/07/16	
2	6号機	中央制御室内の防災盤に、廃棄物処理建屋地下1階高電導度廃液系収集タンク(B)室の検知器断線警報の発生を確認した。現場確認を行い、当該エリアに炎・煙のないことおよび検知器周辺に結露発生のないことを確認。当該検知器を交換済み。	2021/07/16	
3	6号機	中央制御室内の防災盤に、原子炉建屋中地下1階残留熱除去系(C)弁室の検知器断線警報の発生を確認した。現場確認を行い、当該エリアに炎・煙のないことおよび検知器周辺に結露発生のないことを確認。当該検知器を交換済み。	2021/07/18	
4	6号機	中央制御室内の防災盤に、原子炉建屋地下2階北側非常用炉心冷却系点検エリアの検知器断線警報の発生を確認した。現場確認を行い、当該エリアに炎・煙のないことおよび検知器周辺に結露発生のないことを確認。当該検知器を交換済み。	2021/07/19	
5	6号機	中央制御室内の防災盤に、原子炉建屋4階原子炉内蔵型再循環ポンプ点検室の検知器断線警報の発生を確認した。現場確認を行い、当該エリアに炎・煙のないことおよび検知器周辺に結露発生のないことを確認。当該検知器を交換済み。	2021/07/20	
6	その他	荒浜側焼却設備建屋排気筒放射線モニタに、トリチウムサンプリング装置(A系)の故障を示す警報が発生し、設備が停止したことを確認した。当該設備を点検・修理。なお、B系は正常で監視に問題なし。	2021/07/18	
7	その他	屋外放射線監視システム(1系)点検において、データサーバー点検終了後に新潟県への伝送接続を復旧したところ、正常に復帰しなかったことを確認した。当該事象の原因を調査。なお、2系は正常でデータ伝送に影響なし。	2021/07/19	

## 不適合情報

2021年7月27日(火)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

- 1. G I グレード      0件
- 2. G II グレード     0件
- 3. G III グレード    3件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	4号機	非常用ディーゼル発電機(A)空気圧縮機(A)(B)の空気溜めに圧張りを行ったところ、圧縮機(A)機付逆止弁から異音が発生していることを確認した。当該弁を点検・修理。なお、空気圧縮機(B)は正常で、保安規定に基づく機能要求に問題なし。	2021/07/20	
2	5号機	中央制御室内の防災盤に、サービス建屋2階エリアの検知器断線警報の発生を確認した。現場確認を行い、当該エリアに炎・煙のないことおよび検知器周辺に結露発生のないことを確認。当該検知器を交換済み。	2021/07/20	
3	6号機	ダスト放射線モニタの点検時、記録計が動作していないことを確認した。当該記録計を交換。なお、測定値は表示画面で確認可能で、代替測定も実施していることにより監視に影響なし。	2021/07/15	

## 不適合情報

2021年7月28日(水)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

### 1. G I グレード 0件

### 2. G II グレード 1件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	原子炉安全の観点から見たグレード
1	3号機	原子炉補機冷却海水系ポンプの点検において、点検後の検査記録でポンプ・モータ基礎部の水平度測定結果が判定基準を超えていたが、当該記録を未確認のまま試運転を実施したことを確認した。当該事象の原因を調査。なお、ポンプの試運転において異常は確認されておらず、ポンプの機能には問題はなく、基礎部の修理を検討。	2021/7/21	—

### 3. G III グレード 5件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	原子炉複合建屋地下2階(管理区域)北西通路の非放射性ストームドレン移送系配管に微少な孔が発生し、床面に水溜まり(約120cc、汚染なし)を確認した。拭き取りおよび受けパン設置済み。当該配管を交換。	2021/07/20	
2	3号機	換気空調補機非常用冷却水系冷凍機(B)→(D)の運転切替時、冷凍機(D)冷媒蒸発圧力計の指示値が低いことを確認した。当該計器を点検・修理。なお、冷凍機(D)のその他のパラメータに異常はなく、運転に問題のないことを確認済み。	2021/07/19	
3	6号機	放射性廃棄物処理建屋地下1階(管理区域)高電導度廃液系濃縮循環ポンプ室において、床漏えい検出系の警報発生を確認した。当該エリアに漏えいがないことを確認。当該検出器を点検・修理。	2021/07/19	
4	6号機	計装用圧縮空気系除湿装置(B)に電気ヒータ温度高を示す警報が発生し、自動停止したことを確認した。除湿装置(A)の自動起動および運転状態に問題のないことを確認。当該設備を点検・修理済み。	2021/07/21	
5	その他	給水設備大湊ろ過水移送ポンプの点検にともなう、ろ過水移送時、圧力タンク排気弁の排水配管から水が排出されていることを確認した。当該排気弁を点検・修理。	2021/07/13	

**不適合情報**

2021年7月29日(木)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。  
 なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

◆ 不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。  
 法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。  
[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

- 1. G I グレード      0件
- 2. G II グレード     0件
- 3. G III グレード    6件

NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	4号機	原子炉建屋給気処理装置冷却・加熱コイルドレン受け柵に腐食および塗装はがれが発生し、排水口閉塞による排水不良を確認した。当該受け柵を清掃および点検・修理。	2021/07/21	
2	4号機	排気筒放射線モニタ(A)の測定指示が下限値を下回った警報が発生し、即時に復帰したことを確認した。当該事象の原因を調査し点検・修理。なお、復帰後の指示値は通常値で安定しており、また、放射線モニタ(B)は正常で測定に影響なし。	2021/07/22	
3	5号機	5号緊急時対策室壁貫通部の気密コネクタ採用における設計検証および妥当性確認のため、設計管理シートを確認したところ、承認権限者でない者が承認していたことを確認した。設計管理シートを新たに作成し、本来の権限者による承認を実施。	2021/07/26	
4	6号機	中央制御室内の防災盤に、原子炉建屋1階北東側通路の検知器断線警報の発生を確認した。現場確認を行い、当該エリアに炎・煙のないことおよび検知器周辺に結露発生のないことを確認。当該検知器を交換済み。	2021/07/26	
5	6号機	中央制御室内の防災盤に、タービン建屋地下1階東側通路の検知器断線警報の発生を確認した。現場確認を行い、当該エリアに炎・煙のないことおよび検知器周辺に結露発生のないことを確認。当該検知器を交換済み。	2021/07/26	
6	7号機	非放射性スチームドレン移送系収集タンクの移送配管止め弁に開固着を確認した。当該弁を点検・修理。	2021/07/24	

## 不適合情報

2021年7月30日(金)にパフォーマンス向上会議で確認した不適合事象は、下記のとおりです。

なお、パフォーマンス向上会議で確認した事象の内容から、確認時点で想定する対応(点検、修理、調査等)などを付記しております。

不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

不適合グレードについては以下のURLをクリックしてご覧ください。

[https://www.tepco.co.jp/niigata\\_hq/data/inside/pdf/image1.pdf](https://www.tepco.co.jp/niigata_hq/data/inside/pdf/image1.pdf)

1.G グレード 0件

2.G グレード 0件

3.G グレード 5件

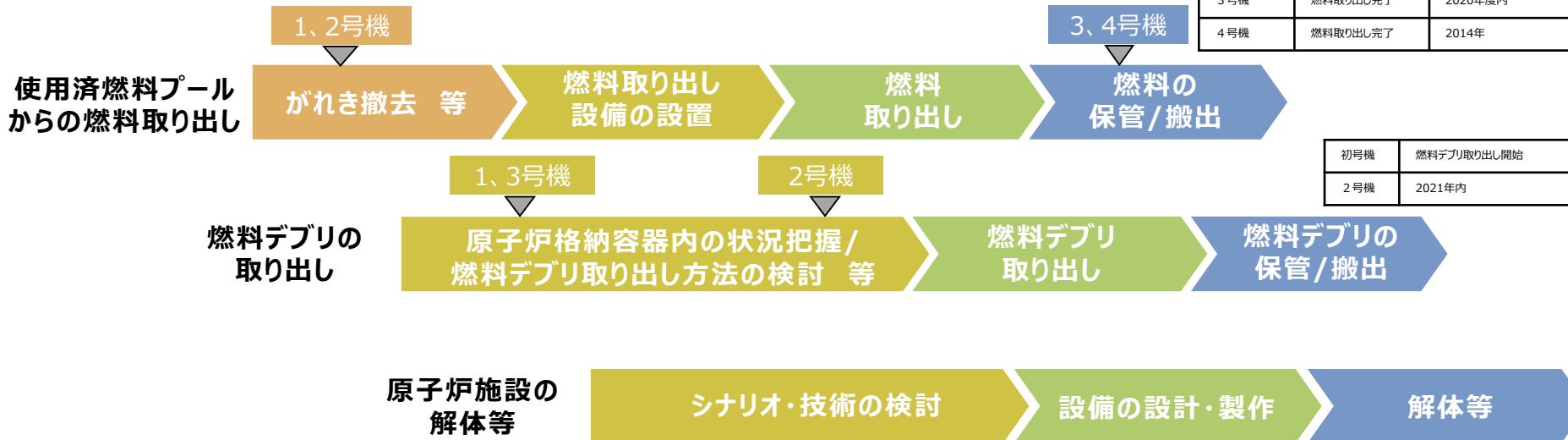
NO.	号機等	不適合事象	発見日	備考
1	1号機	主冷凍機冷水ポンプ(B)(C)(D)の吸込圧力計に指示不良を確認した。当該計器を点検・修理。	2021/07/27	
2	5号機	消防設備点検時、タービン建屋1階南西側(非管理区域)の3台連なっている煙感知器連動防火ダンパの2台目、3台目が風圧と推定される影響により、閉止しないことを確認した。当該事象の原因を調査し修理。	2021/07/21	
3	6号機	高圧代替注水系第二試験用調節弁の動作試験において、制御盤にて開操作したところ、当該弁が開動作したことを確認した。動作試験を中止。当該事象の原因を調査および修理を行い、動作試験を再実施。	2021/07/27	
4	6号機	原子炉建屋地下2階(管理区域)で作業に従事した協力企業作業員の退域時、作業で使用した工具(ライト)を搬出するため携行品モニターで測定したところ、汚染(7.3Bq/cm <sup>2</sup> )があることを確認した。当該工具を管理区域内で保管。作業エリアおよび移動経路の測定を行い、汚染のないことを確認。当該事象の原因を調査。	2021/07/27	
5	7号機	タービン建屋地下2階(非管理区域)の循環水配管エリアの床排水口に溜まっていた地下水排水のため、閉止栓を開操作したところ、錆による開固着(1箇所)を確認した。また、当該エリアの排水口閉止栓(4箇所)に閉固着を確認した。当該排水口を点検・修理。	2021/07/24	

## 「廃炉」の主な作業項目と作業ステップ

使用済燃料プールからの燃料取り出しは、2014年12月に4号機が完了し、2021年2月28日に3号機が完了しました。引き続き、1、2号機の燃料取り出し、1～3号機燃料デブリ(注1)取り出しの開始に向け順次作業を進めています。

(注1)事故により溶け落ちた燃料

1～6号機	燃料取り出し完了	2031年内
1号機	燃料取り出し開始	2027年度～2028年度
2号機	燃料取り出し開始	2024年度～2026年度
3号機	燃料取り出し完了	2020年度内
4号機	燃料取り出し完了	2014年



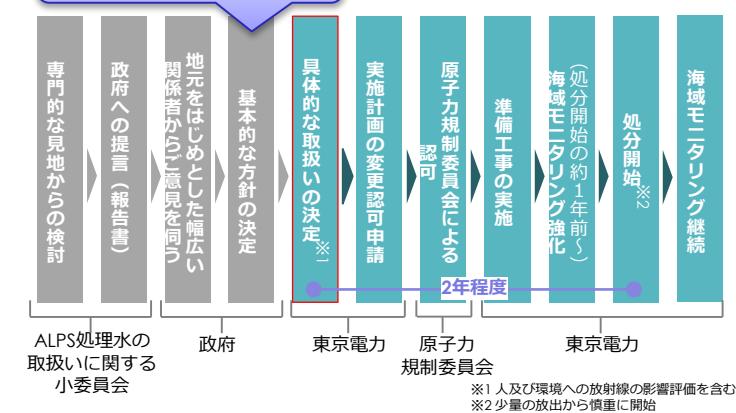
初号機	燃料デブリ取り出し開始
2号機	2021年内

## 処理水対策

### 多核種除去設備等処理水の処分について

処理水の海洋放出にあたっては、安全に関する基準等を遵守し、人及び周辺環境、農林水産品の安全を確保してまいります。また、風評影響を最大限抑制するべく、モニタリングのさらなる強化や第三者による客観性・透明性の確保、IAEAによる安全性確認などに取り組むとともに、正確な情報を透明性高く、継続的に発信してまいります。

4月13日に「廃炉・汚染水・処理水対策関係閣僚等会議」より決定



※1 人及び環境への放射線の影響評価を含む  
 ※2 少量の放出から慎重に開始

## 汚染水対策 ～3つの取り組み～

### (1) 3つの基本方針に従った汚染水対策の推進に関する取り組み

①汚染源を「取り除く」 ②汚染源に水を「近づけない」 ③汚染水を「漏らさない」

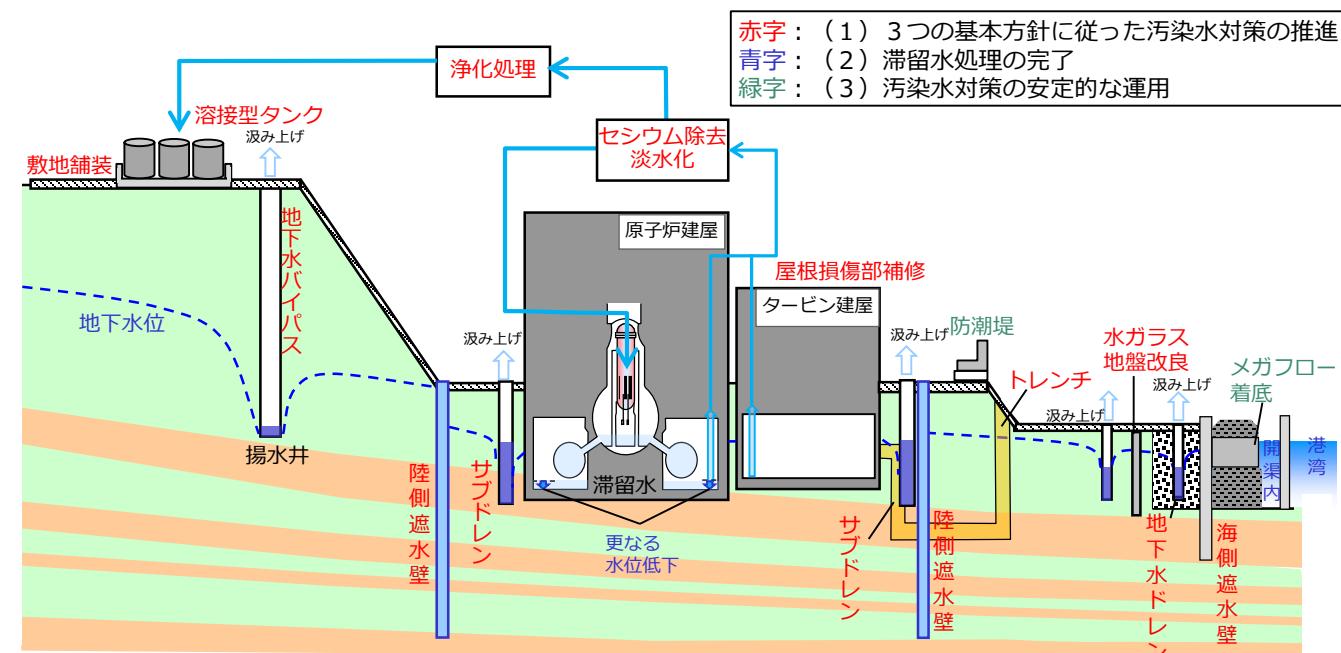
- 多核種除去設備以外で処理したストロンチウム処理水は、多核種除去設備での処理を行い、溶接型タンクで保管しています。
- 陸側遮水壁、サブドレン等の重層的な汚染水対策により、建屋周辺の地下水位を低位で安定的に管理しています。また、建屋屋根の損傷部の補修や構内のフェーシング等により、降雨時の汚染水発生量の増加も抑制傾向となり、汚染水発生量は、対策前の約540m<sup>3</sup>/日(2014年5月)から約180m<sup>3</sup>/日(2019年度)、約140m<sup>3</sup>/日(2020年度)まで低減しています。
- 汚染水発生量の更なる低減に向けて対策を進め、2025年内には100m<sup>3</sup>/日以下に抑制する計画です。

### (2) 滞留水処理の完了に向けた取り組み

- 建屋滞留水水位を計画的に低下させるため、滞留水移送装置を迫設する工事を進めております。1～3号機原子炉建屋、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋を除く建屋においては、床面露出状態を維持出来る状態となりました。
- 2020年に1～3号機原子炉建屋、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋を除く建屋内滞留水処理が完了しました。今後、原子炉建屋については2022年度～2024年度に滞留水の量を2020年末の半分程度に低減させる計画です。
- プロセス主建屋、高温焼却炉建屋の地下階に、震災直後の汚染水対策の一環として設置したゼオライト土嚢等について、線量低減策及び安定化に向けた検討を進めています。

### (3) 汚染水対策の安定的な運用に向けた取り組み

- 津波対策として、建屋開口部の閉止対策や防潮堤設置の工事を進めています。また、豪雨対策として、土嚢設置による直接的な建屋への流入を抑制するとともに、排水路強化等を計画的に実施していきます。



赤字：(1) 3つの基本方針に従った汚染水対策の推進  
 青字：(2) 滞留水処理の完了  
 緑字：(3) 汚染水対策の安定的な運用

## 取り組みの状況

◆ 1～3号機の原子炉・格納容器の温度は、この1か月、約20℃～約35℃※1で推移しています。また、原子炉建屋からの放射性物質の放出量等については有意な変動がなく※2、総合的に冷温停止状態を維持していると判断しています。

※1 号機や温度計の位置により多少異なります。

※2 1～4号機原子炉建屋からの放出による被ばく線量への影響は、2021年6月の評価では敷地境界で年間0.00003ミリシーベルト未満です。なお、自然放射線による被ばく線量は年間約2.1ミリシーベルト（日本平均）です。

### 2号機燃料取り出しに向けた除染作業のモックアップ完了

原子炉建屋最上階について、線量評価を実施したところ、これまでに実施した残置物の片付けなどの効果により、2018年度より2割程度低い線量評価が得られました。

さらなる線量低減に向けて、除染作業のモックアップを遠隔技術開発センター（楡葉町）で実施してきましたが、今後、最上階の除染作業に着手します。

除染や遮蔽による線量低減効果を確認しながら、目標線量1mSv/hに近づけてまいります。

燃料取り出し用構台の設置に向けた作業については、8月上旬に地盤改良試験を実施予定です。



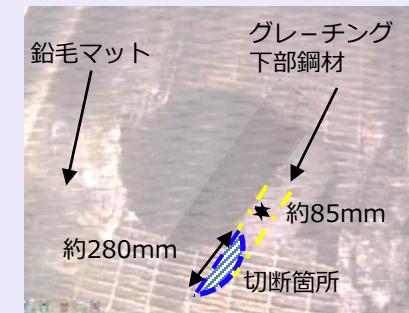
＜模擬高所壁面除染の様子＞

### 1号機PCV内部調査に向けたアクセスルート構築作業は着実に進捗

1号機原子炉格納容器（PCV）内部調査に向けたアクセスルート構築のため干渉物切断作業を3ステップに分けて実施中で、7月15日にステップ2のグレーチング下部鋼材、手摺（横部）の切断が完了しました。

ステップ3の電線管の切断については9月中旬に実施予定です。

引き続き周辺環境に影響を与えぬよう、安全最優先で慎重に作業を進めてまいります。



＜グレーチング下部鋼材切断状況＞

### 2号機燃料デブリ試験的取り出し装置が日本に到着

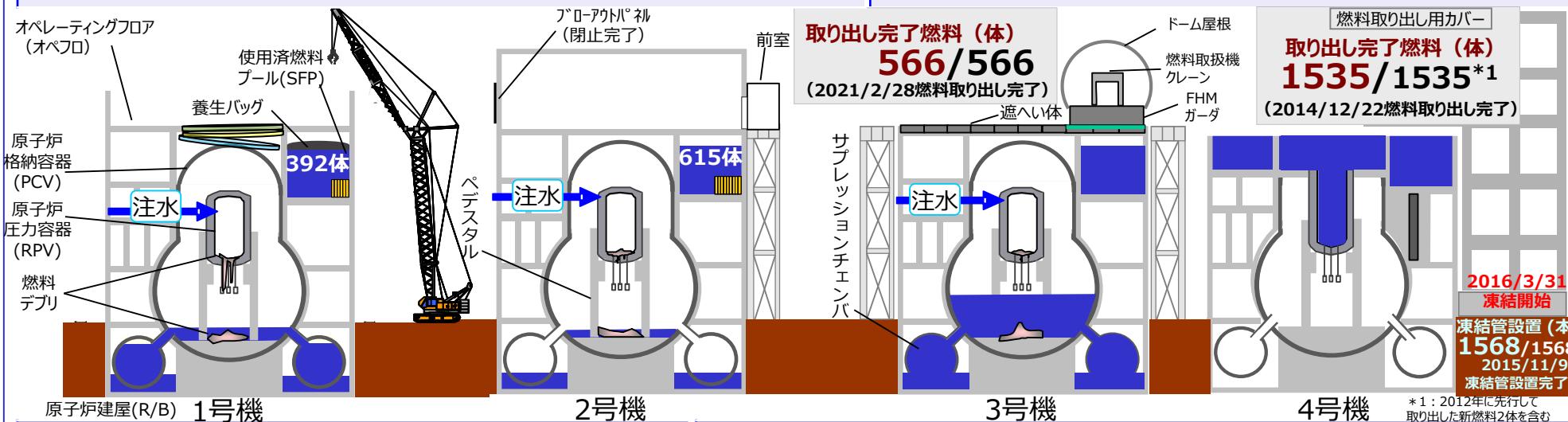
英国にて開発を進めていた2号機燃料デブリ試験的取り出し装置が7月10日に日本に到着し、7月12日に国内工場（神戸）に運び込まれました。

今後、国内での性能確認試験を進めてまいります。

また、遠隔ロボットの操作技能を習得することを目的に、7月1日より福島第一原子力発電所の所員9名を三菱重工業に派遣し、操作訓練を開始しています。



＜日本到着の様子（2021年7月10日）＞



陸側遮水壁

凍結管設置 (本) 1568/1568 2015/11/9 凍結管設置完了

\*1: 2012年に先行して取り出した新燃料2体を含む

### 事故進展の解明に向けた建屋内調査計画立案の為、1,2号機原子炉建屋の事前調査を計画

「福島第一原子力発電所1～3号機の炉心・格納容器の状態の推定と未解明問題に関する検討」として、事故進展の解明にかかる取り組みを継続して実施中です。

2021年度は、γイメージャや3次元画像取得装置等を用いて1,2号機原子炉建屋内の空間情報や線量情報等、今後の原子炉建屋内の調査計画立案に資する情報を取得してまいります。



＜測定装置(γイメージャ※)＞  
※γ線測定結果と3Dスキャン情報を組み合わせ、γ線の3次元分布を取得

### 2号機原子炉建屋最上階内シールドプラグ穿孔部調査を計画

2021年4月、規制庁と協働して2号機原子炉建屋最上階床面の表面汚染密度調査を実施し、シールドプラグの下部及び隙間からの線量影響が大きいと評価しております。

上記評価の確度向上を目的に、既存穿孔箇所を活用した線量調査を8月下旬に実施予定です。

調査結果につきましては、事故の分析や今後の廃炉作業に活用してまいります。



＜既存穿孔箇所配置＞

### 一時保管エリアP排水枡において全βの値が一時的に上昇

7月5日、一時保管エリアP排水枡における全β放射能の値が一時的に上昇し、当該エリアのノッチタンク周辺の地表面にて汚染が確認されました。

ノッチタンク2基の天板ハッチ部蓋および天板がずれ、降雨により放射性物質を含む雨水が流出したためと推定しています。周辺のモニタリングの結果から環境への影響はないと評価しておりますが、当該のノッチタンクについては天板ハッチ部蓋を復旧し、雨水が入らないようシート養生を実施しました。

また、ゼオライト土嚢の設置や汚染土壌の除去などの対策を実施するとともに、今後、ノッチタンクの上部の確認ができるよう、ドローンを使用した定期的な巡視も実施し、管理を強化してまいります。

# 主な取り組みの配置図



1号機PCV内部調査に向けた  
アクセスルート構築作業は着実に進捗

2号機燃料取り出しに向けた除染作業の  
モックアップ完了

一時保管エリアP排水枡において  
全βの値が一時的に上昇を確認

2号機燃料デブリ試験的取り出し装置  
が日本に到着

事故進展の解明に向けた建屋内調査計画立案の為  
1,2号機原子炉建屋の事前調査を計画

2号機原子炉建屋最上階内  
シールドプラグ穿孔部調査を計画

↑  
地下水の流れ

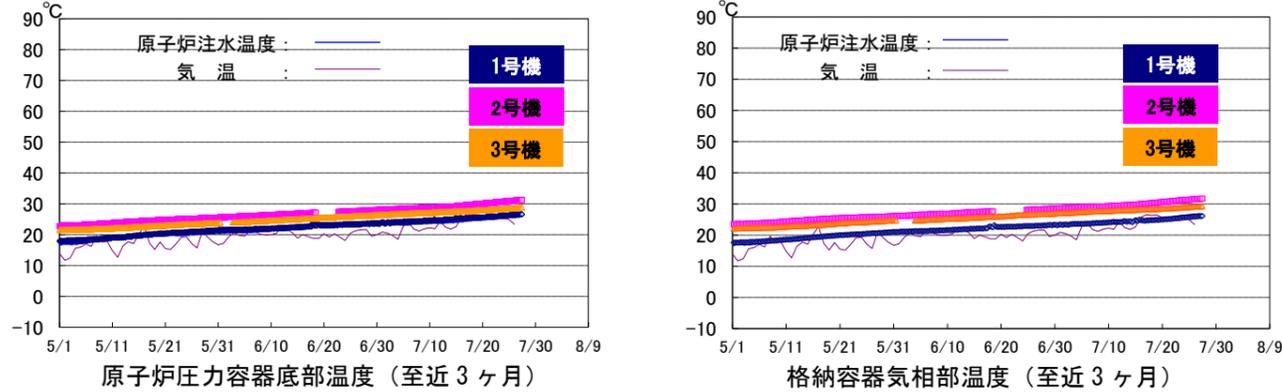
※モニタリングポスト (MP-1~MP-8) のデータ  
敷地境界周辺の空間線量率を測定しているモニタリングポスト(MP)のデータ (10分値) は0.316 $\mu$ Sv/h~1.168 $\mu$ Sv/h (2021/6/23~2021/7/27)。  
MP-2~MP-8については、空間線量率の変動をより正確に測定することを目的に、2012/2/10~4/18に、環境改善 (森林の伐採、表土の除去、遮へい壁の設置) の工事を実施しました。  
環境改善工事により、発電所敷地内と比較して、MP周辺の空間線量率だけが低くなっています。  
MP-6については、さらなる森林伐採等を実施した結果、遮へい壁外側の空間線量率が大幅に低減したことから、2013/7/10~7/11にかけて遮へい壁を撤去しました。

提供：日本スペースイメージング (株) 2020.5.24撮影  
Product(C)[2020] DigitalGlobe, Inc., a Maxar company.

## I. 原子炉の状態の確認

### 原子炉内の温度

注水冷却を継続することにより、原子炉圧力容器底部温度、格納容器気相部温度は、号機や温度計の位置によって異なるものの、至近1ヶ月において、約20～35度で推移。



※1 トレンドグラフは複数点計測している温度データの内、一部のデータを例示  
 ※2 設備の保守点検作業等により、データが欠測する場合あり

### 原子炉建屋からの放射性物質の放出

2021年6月において、1～4号機原子炉建屋から新たに放出される放射性物質による、敷地境界における空気中放射性物質濃度は、Cs-134 約  $1.5 \times 10^{-12}$  ベクレル/cm<sup>3</sup> 及び Cs-137 約  $1.4 \times 10^{-12}$  ベクレル/cm<sup>3</sup> と評価。放出された放射性物質による敷地境界上の被ばく線量は 0.00003mSv/年未満と評価。

1～4号機原子炉建屋からの放射性物質（セシウム）による敷地境界における年間被ばく線量評価



(参考)

※周辺監視区域外の空気中の濃度限度：  
 [Cs-134]： $2 \times 10^{-5}$  ベクレル/cm<sup>3</sup>、  
 [Cs-137]： $3 \times 10^{-5}$  ベクレル/cm<sup>3</sup>  
 ※モニタリングポスト（MP1～MP8）のデータ  
 敷地境界周辺の空間線量率を測定しているモニタリングポスト（MP）のデータ（10分値）は  $0.316 \mu\text{Sv/h} \sim 1.168 \mu\text{Sv/h}$ （2021/6/23～2021/7/27）  
 MP2～MP8 空間線量率の変動をより正確に測定することを目的に、環境改善（周辺の樹木伐採、表土の除去、遮へい設置）を実施済み。

(注1) 線量評価については、施設運営計画と月例報告とで異なる計算式及び係数を使用していたことから、2012年9月に評価方法の統一を図っている。  
 4号機については、使用済燃料プールからの燃料取り出し作業を踏まえ、2013年11月より評価対象に追加している。  
 2015年度より連続ダストモニタの値を考慮した評価手法に変更し、公表を翌月としている。  
 (注2) 線量評価は1～4号機の放出量評価値と5,6号機の放出量評価値より算出。なお、2019年9月まで5,6号機の線量評価は運転時の想定放出量に基づく評価値としていたが、10月より5,6号機の測定実績に基づき算出する手法に見直し。

### その他の指標

格納容器内圧力や、臨界監視の為の格納容器放射性物質濃度(Xe-135)等のパラメータについても有意な変動はなく、冷却状態の異常や臨界等の兆候は確認されていない。

以上より、総合的に冷温停止状態を維持しており原子炉が安定状態にあることが確認されている。

## II. 分野別の進捗状況

### 多核種除去設備等処理水の処分

#### ➤ 海洋生物の飼育試験に関する検討状況

- 多核種除去設備等処理水(ALPS処理水)の海洋生物の飼育試験について、ALPS処理水の処分開始前より飼育試験を実施し、「海水」と「海水で希釈したALPS処理水」の双方の環境下で、生育状況を比較・評価する予定。
- 関係者の皆さまからご意見、ご協力を得ながら試験を進めていく。進捗等については随時公開していく。

### 汚染水対策

～汚染水を「取り除く」、汚染源に水を「近づけない」、汚染水を「漏らさない」の3つの基本方針にそって、地下水を安定的に制御するための、重層的な汚染水対策を継続実施～

#### ➤ 汚染水発生量の現状

- 日々発生する汚染水に対して、サブドレンによる汲み上げや陸側遮水壁等の対策を重層的に進め、建屋流入量を低減。
- 「近づけない」対策(地下水バイパス、サブドレン、陸側遮水壁等)や雨水浸透対策として建屋屋根破損部への補修等を実施してきた結果、2020年度の汚染水発生量は約140m<sup>3</sup>/日まで低減。
- 引き続き、汚染水発生量低減に向けて、対策に取り組む。

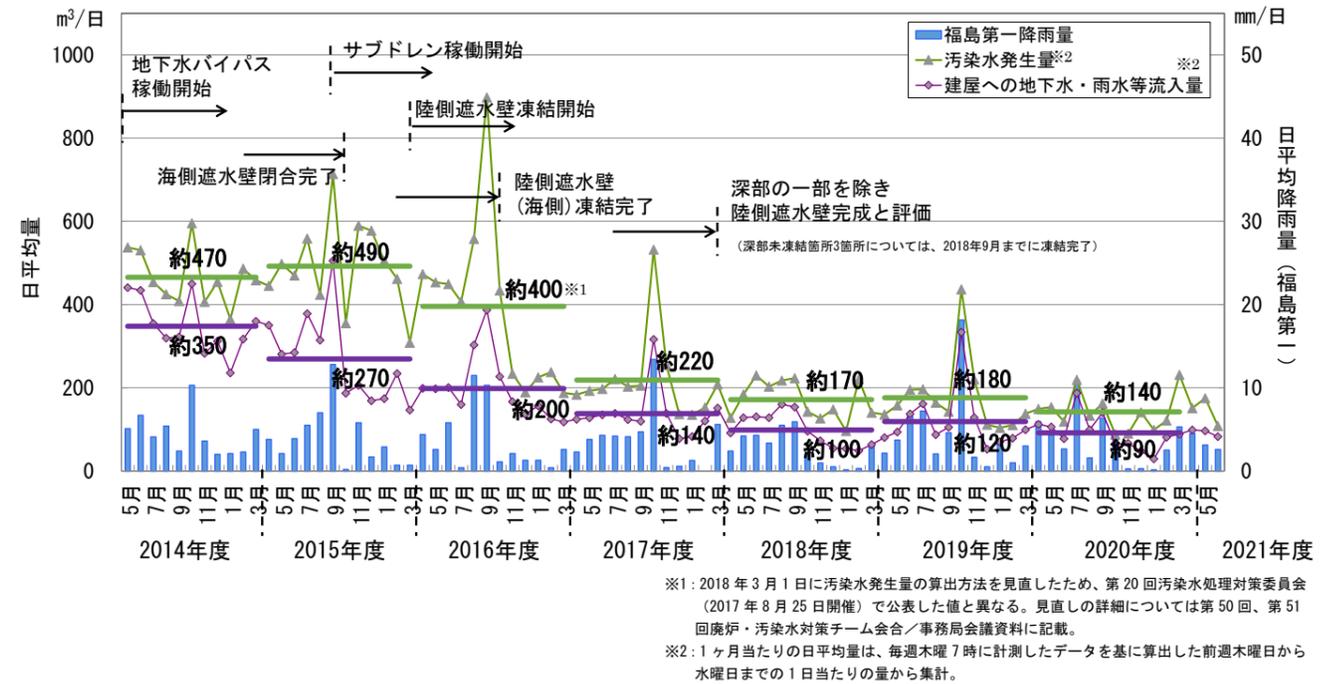


図1：汚染水発生量と建屋への地下水・雨水等の流入量の推移

#### ➤ 地下水バイパスの運用状況

- 2014年4月9日より12本ある地下水バイパス揚水井の各ポンプを順次稼働し、地下水の汲み上げを開始。2014年5月21日より内閣府廃炉・汚染水対策現地事務所職員の立ち会いの下、排水を開始。2021年7月28日までに約653,000m<sup>3</sup>を排水。汲み上げた地下水は、一時貯留タンクに貯留し、水質が運用目標未満であることを東京電力及び第三者機関にて確認した上で排水。
- ポンプの運転状況を確認しつつ、適宜点検・清掃を実施中。

#### ➤ サブドレン他水処理施設の運用状況

- 建屋へ流れ込む地下水の量を減らす為、建屋周辺の井戸(サブドレン)からの地下水の汲み上げを2015年9月3日より開始。汲み上げた地下水は専用の設備により浄化し、2015年9月14日より内閣府廃炉・汚染水対策現地事務所職員の立ち会いの下、排水を開始。2021年7月27日までに約1,115,000m<sup>3</sup>を排水。浄化した地下水は水質が運用目標未満であることを東京電力及び第三者機関にて確認した上で排水。
- 海側遮水壁の閉合以降、地下水ドレンポンド水位が上昇したことから2015年11月5日より汲み上げを開始。2021年7月27日までに約267,000m<sup>3</sup>を汲み上げ。地下水ドレンからタービン建屋へ約10m<sup>3</sup>/日未満移送(2021年6月17日～2021年7月21日の平均)。
- 重層的な汚染水対策の一つとして、降雨の土壌浸透を抑える敷地舗装等と併せてサブドレン処理システムを強化する為の設備の設置を行っており、2018年4月より供用を開始。これにより、処理能力を900m<sup>3</sup>/日から1500m<sup>3</sup>/日に増加させ信頼性を向上。更にピーク時には運用効率化により

1週間弱は最大2000m<sup>3</sup>/日の処理が可能。

- サブドレンの安定した汲み上げ量確保を目的とし、サブドレンピットの増強・復旧工事を実施中。増強ピットは工事完了したものから運用開始(運用開始数:増強ピット12/14)。復旧ピットは予定していた3基の工事が完了し、2018年12月26日より運用開始(運用開始数:復旧ピット3/3)。また、さらに追加で1ピット復旧する工事を2019年11月より開始(No.49ピット)し、2020年10月9日より運用開始。
- サブドレン移送配管清掃時の汲み上げ停止の解消を目的とし、移送配管を二重化する為、配管・付帯設備の設置を完了。
- サブドレン稼働によりサブドレン水位がT.P. 3.0mを下回ると、建屋への流入量も150m<sup>3</sup>/日を下回るようになってきているが、降雨による流入量の増加も認められる。

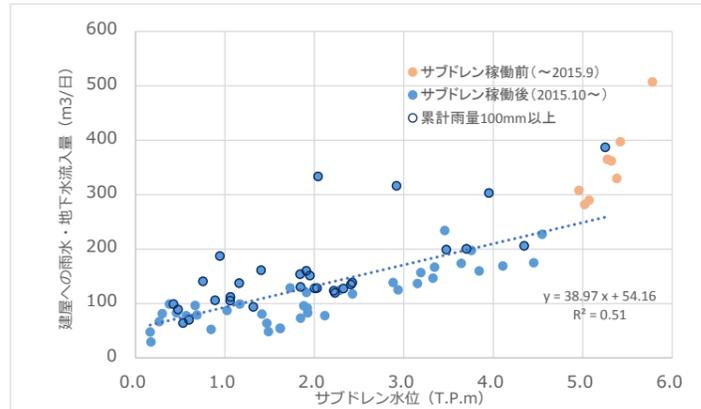


図2: 建屋への地下水・雨水等流入量と1~4号機サブドレン水位の相関

### フェーシングの実施状況

- フェーシングについては、構内の地表面をアスファルト等で覆い、線量低減並びに雨水の地下浸透を抑制し建屋への地下水流入量の低減を図っている。敷地内の計画エリア145万m<sup>2</sup>のうち、2021年6月末時点で95%が完了している。このうち、陸側遮水壁内エリアについては、廃炉作業に支障がなく実施可能な範囲から、適宜ヤード調整のうえ進めている。計画エリア6万m<sup>2</sup>のうち、2021年6月末時点で25%が完了している。

### 陸側遮水壁の造成状況と建屋周辺地下水位の状況

- 陸側遮水壁は、凍土の成長を制御する維持管理運転を、2017年5月より、北側と南側で実施中。また、凍土が十分に造成されたことから、東側についても2017年11月に維持管理運転を開始。2018年3月に維持管理運転範囲を拡大。
- 2018年3月、陸側遮水壁はほぼ全ての範囲で地中温度が0°Cを下回ると共に、山側では4~5mの内外水位差が形成され、深部の一部を除き造成が完成。2018年3月7日に開催された第21回汚染水処理対策委員会にて、サブドレン等の機能と併せ、地下水を安定的に制御し、建屋に地下水を近づけない水位管理システムが構築され、汚染水の発生を大幅に抑制することが可能となったとの評価が得られた。
- 深部の未凍結箇所については補助工法を行い、2018年9月までに0°C以下となったことを確認。また、2019年2月より全区間で維持管理運転を開始。
- 陸側遮水壁内側エリアの地下水位は、年々低下傾向にあり、現状山側では降雨による変動はあるものの内外水位差を確保。地下水ドレン観測井水位は約T.P.+1.5mであり、地表面から十分に下回っている(地表面高さT.P.2.5m)。

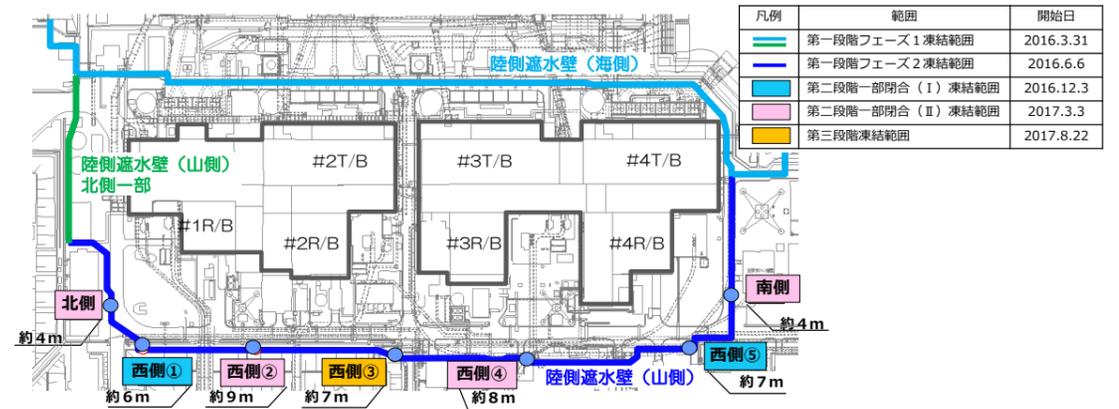
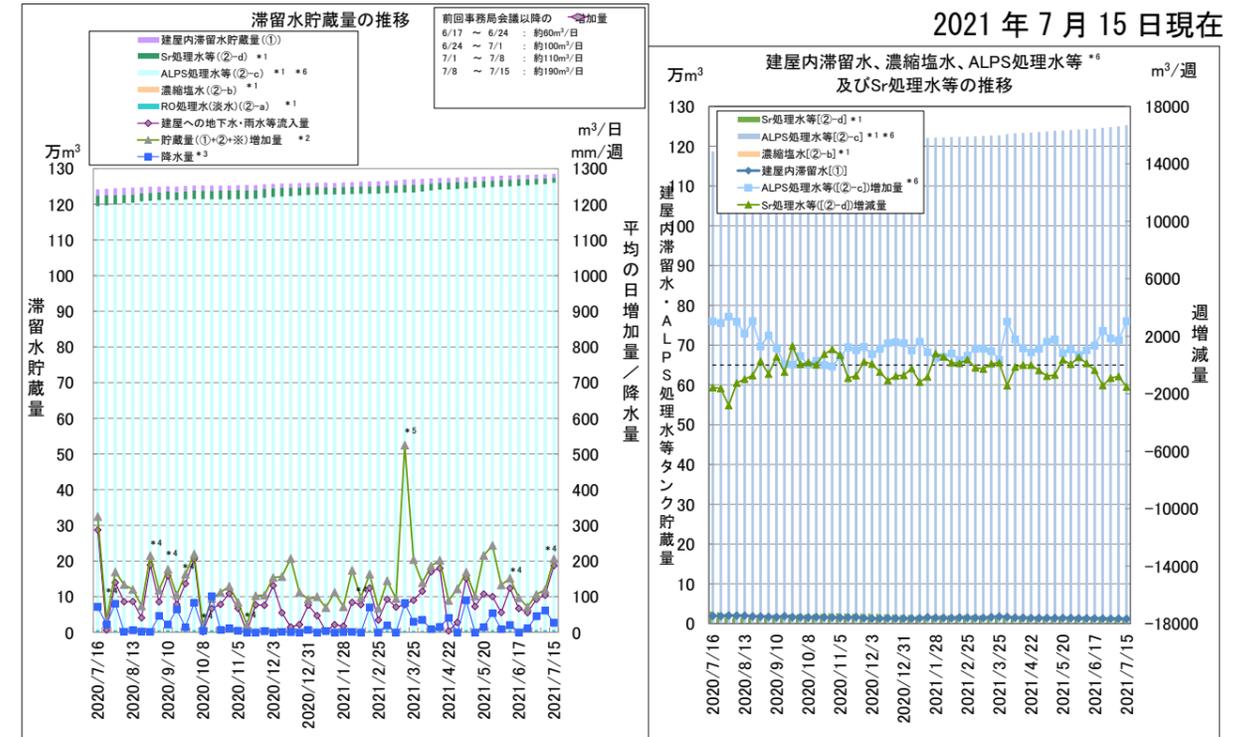


図3: 陸側遮水壁(山側)の閉合箇所

※ 図中の数値は各凍結箇所の区間延長



- \*1: 水位計0%以上の水量
- \*2: 貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施) [(建屋への地下水・雨水等流入量) + (その他移送量) + (ALPS薬液注入量)]
- \*3: 2018/12/13より浪江地点の降水量から1F構内の降水量に変更。
- \*4: 建屋内滞留水の水位低下の影響で、評価上、建屋への地下水・雨水等流入量が一時的に変動したものと推定。(2020/7/16~23, 8/20~27, 9/3~10, 9/17~24, 10/1~8, 11/12~19, 2021/2/4~2/11, 6/3~6/10, 7/8~7/15)
- \*5: 2021/3/18廃炉作業に伴う建屋への移送により貯蔵量が増加。(移送量の主な内訳は①タンク堀内の滞留水(物揚場排水路から移送した水)をプロセス主建屋へ移送: 約390m³/日、②タンク堀内の滞留水(物揚場排水路から移送した水)を高温焼却建屋へ移送: 約10m³/日、③3号増設FSTRから3号廃棄物処理建屋へ移送: 10m³/日、他)
- \*6: 多核種除去設備等の処理水の表記について、国のALPS処理水の定義変更に伴い、表記を見直し(2021/4/27)

図4: 滞留水の貯蔵状況

### 多核種除去設備の運用状況

- 多核種除去設備(既設・高性能)は放射性物質を含む水を用いたホット試験を実施中(既設A系: 2013年3月30日~、既設B系: 2013年6月13日~、既設C系: 2013年9月27日~、高性能: 2014年10月18日~)。多核種除去設備(増設)は2017年10月16日より本格運転開始。
- これまでに既設多核種除去設備で約476,000m<sup>3</sup>、増設多核種除去設備で約708,000m<sup>3</sup>、高性能多核種除去設備で約103,000m<sup>3</sup>を処理(2021年7月15日時点)、放射性物質濃度が高い既設B系出口水が貯蔵されたJ1(D)タンク貯蔵分約9,500m<sup>3</sup>を含む。
- ストロンチウム処理水のリスクを低減する為、多核種除去設備(既設・増設・高性能)にて処理を実施中(既設: 2015年12月4日~、増設: 2015年5月27日~、高性能: 2015年4月15日~)。これまでに約807,000m<sup>3</sup>を処理(2021年7月15日時点)。

## ➤ タンク内にある汚染水のリスク低減に向けて

- セシウム吸着装置 (KURION) でのストロンチウム除去 (2015 年 1 月 6 日～)、第二セシウム吸着装置 (SARRY) でのストロンチウム除去 (2014 年 12 月 26 日～) を実施中。第三セシウム吸着装置 (SARRY II) でのストロンチウム除去 (2019 年 7 月 12 日～) を実施中。2021 年 7 月 15 日時点で約 645,000m<sup>3</sup> を処理。

## ➤ タンクエリアにおける対策

- 汚染水タンクエリアに降雨し堰内に溜まった雨水のうち、排水基準を満たさない雨水について、2014 年 5 月 21 日より雨水処理装置を用い放射性物質を除去し敷地内に散水 (2021 年 7 月 26 日時点で累計約 183,000m<sup>3</sup>)。

## ➤ 5・6号Fタンクエリアフランジタンク使用ゼロに向けた対応方針

- Fタンクエリアのフランジ型タンク (H・I・J群) 7基から漏えいが発生しており、原因は経年劣化および地震 (2021 年 2 月 13 日等) による加振を受けフランジ止水材が機能低下したためと推定している。
- 応急対策として、漏えい箇所以下までタンク水位を下げ、止水材にて修理 (2021 年 8 月実施予定)。
- 予防保全としてフランジ継手部はパテ補修及び塗装を実施。ボルト・ナット部はコーキング処理および塗装を実施 (2021 年度実施予定)。
- 中長期的対策として、フランジタンク運用を止めることとし、リスクも含め水バランス・工程など詳細検討中。

## ➤ Eエリア D1・D2タンク (フランジ型) の解体作業の状況

- D1・D2タンク内の残水 (2021 年 1 月 28 日採取) について、放射能濃度を測定したところ、アルファ核種について、高濃度 (建屋内滞留水と同程度) であることを確認。
- アルファ核種は主に粒子状で存在しており、RO濃縮塩水を貯留していたタンク解体に伴い、タンク底部のRO濃縮塩水 (残水) をD1・D2タンクに集めたことにより、スラッジが沈降し、当該タンク下部の残水のアルファ核種の濃度が高くなったものと推定。
- 7/13, 14にD1・D2タンクのそれぞれ上部にある通気管の出口に、高性能空気フィルタ (HEPAフィルタ) を設置した。
- 同エリアでの作業は適切な防護装備で実施しており、身体汚染及び内部取込みは確認されていない。また、周辺環境への影響はない。
- 当該水のALPS処理開始以降も、ALPS出口水における全アルファの濃度は検出限界値未満 (N. D.) であり、ALPSでアルファ核種を検出限界値未満まで除去できていることを確認。

## ➤ 1/2号機排気筒ドレンサンプピットの対応について

- 2021 年 7 月 14 日～16 日に 1/2 号排気筒ドレンサンプピットへの雨水流入防止対策として、ピット南東側マンホールに蓋を設置した。
- また当該マンホール内にある土をサンプリングし分析を行った結果、高い放射能を含んでいることが分かった。
- 5 月 17 日に実施した流入箇所調査のためのピット周辺への散水結果を踏まえると、マンホール内部に流入した雨水がマンホール内の土に染み込み汚染され、サンプピットへ流入していると想定される。
- その後、7 月 26 日～28 日の降雨の際にピット内の水位上昇を確認したことから、今後マンホール蓋設置後のピット内への流入経路の調査方法を検討する。
- 引き続きピット内水のサンプリング・分析を行い、マンホール蓋設置前後での濃度の変化有無について確認する。
- なお、1/2 号排気筒ドレンサンプピットは、排水ポンプ起動時以外の水位の低下は見られておらず、系外への流出はない。

## 使用済燃料プールからの燃料取り出し

～耐震・安全性に万全を期しながらプール燃料取り出しに向けた作業を着実に推進～

### ➤ 1号機使用済燃料取り出しに向けた主要工事

- ガレキ撤去後にカバーを設置する工法と、ガレキ撤去より先に原子炉建屋を覆う大型カバーを設置しカバー内でガレキ撤去を行う工法の2案について検討を進めてきたが、より安全・安心に作業を進める観点から『大型カバーを先行設置しカバー内でガレキ撤去を行う工法』を選択。
- 南側崩壊屋根等の撤去に際し、天井クレーン／燃料取扱機の位置や荷重バランスが変化し落下するリスクを可能な限り低減する為、燃料取扱機を下部から支える支保の設置を計画。
- ガレキ落下防止・緩和対策のうち1号機燃料取扱機支保の設置作業を2020年10月6日より開始し10月23日に完了。
- 天井クレーン支保の設置については、2020年10月より準備を開始し、11月24日に作業完了。
- 大型カバーを原子炉建屋に設置するため、干渉する建屋カバー (残置部) の解体を2020年12月19日より開始し、2021年6月19日に当初計画通りに完了。
- 4月下旬より、大型カバー設置へ向けた仮設構台の組立て作業等を構外ヤードで実施中。
- 現在、原子炉建屋周囲の作業ヤード整備を実施しており、その後、2021年度上期より大型カバー設置工事に着手する予定。
- 引き続き、2027年度から2028年度に開始予定の燃料取り出し作業に向けて安全最優先でガレキ撤去作業等に着実に取り組んでいく。

### ➤ 2号機使用済燃料取り出しに向けた主要工事

- 搬出に向けた作業習熟訓練が完了したことから、2020年7月20日より原子炉建屋最上階 (以下、オペフロ) 内準備作業に着手。2020年8月26日より、これまでに残置物を格納したコンテナを固体廃棄物貯蔵庫へ搬出。2020年12月11日完了。
- オペフロの線量低減に向け、除染作業のモックアップを実施しており、2021年6月末から、現場でのオペフロ除染作業の準備を実施する予定。
- 燃料取り出しの工法については、2018年11月～2019年2月に実施したオペフロ内調査の結果を踏まえ、ダスト管理や作業被ばくの低減などの観点から、建屋南側に小規模開口を設置しアクセスする工法を選択 (従来は建屋上部を全面解体する工法)。
- 現在、準備工事のうち干渉物撤去 (地中埋設物等) を進めており、その後、地盤改良準備、地盤改良を実施し、2022年度上期より構台設置に着手する予定。

## 固体廃棄物の保管管理、処理・処分、原子炉施設の廃止措置に向けた計画

～廃棄物発生量低減・保管適正化の推進、適切かつ安全な保管と処理・処分にに向けた研究開発～

### ➤ ガレキ・伐採木の管理状況

- 2021年6月末時点でのコンクリート、金属ガレキの保管総量は約310,700m<sup>3</sup> (5月末との比較: -200m<sup>3</sup>) (エリア占有率: 77%)。伐採木の保管総量は約136,800m<sup>3</sup> (5月末との比較: +2,100m<sup>3</sup>) (エリア占有率: 78%)。保護衣の保管総量は約33,700m<sup>3</sup> (5月末との比較: +700m<sup>3</sup>) (エリア占有率: 49%)。ガレキの増減は、主にエリア整理のための移動による減少。使用済保護衣の増減は、焼却運転の未実施による増加。

### ➤ 水処理二次廃棄物の管理状況

- 2021年7月1日時点での廃スラッジの保管状況は454m<sup>3</sup> (占有率: 65%)。濃縮廃液の保管状況は9,380m<sup>3</sup> (占有率: 91%)。使用済ベッセル・多核種除去設備の保管容器 (HIC) 等の保管総量は5,158体 (占有率: 81%)。

### ➤ 固体廃棄物の保管管理計画の改訂 (2021年度版)

- 2016年3月に策定した固体廃棄物の保管管理計画について、2021年7月29日に5回目の改訂を実施。

- 「瓦礫等」の実績・発生量予測は、2021年3月末の実績の反映や、最新の工事計画等を踏まえて今後10年程度に対し実施し、設備設置の計画への影響を確認。
- 増設雑固体廃棄物焼却設備及び大型廃棄物保管庫第1棟の竣工時期見直しを反映するとともに、除染・減容設備として「溶融設備」の記載を追加。
- 2032年度頃には保管容量を超過する可能性があるため固体廃棄物貯蔵庫の増設について検討する計画。なお、2028年度末時点では保管容量を満足している見通しであり、引き続き中長期ロードマップの目標工程である「2028年度のガレキ等の屋外一時保管解消」に向けて、計画的に取り組む。

➤ 一時保管エリアコンテナ点検の実施状況

- 表面線量が高い(0.1~30mSv/h)瓦礫類収納容器(以下、コンテナ)の外観目視点検について、7月27日時点で5,338基中5,270基完了。
- 内容物が把握できていないコンテナ(4,011基)の内容物確認(水分有無を確認含む)の実施は、上記の外観目視点検終了後に開始。
- 上記の外観目視点検、内容物確認の結果を踏まえてコンテナの点検内容、点検頻度を決めて定期的に点検を行う。
- 今後、コンテナの一時保管を申請する際、収納物に水分を含んでいないことを確認するため、収納物の写真を添付して申請する運用に変更する。

原子炉の冷却

~注水冷却を継続することにより低温での安定状態を維持するとともに状態監視を補完する取組を継続~

➤ 1号機 原子炉格納容器における水位安定の状況について

- 2月13日の福島県沖を震源とする地震以降、PCV水位が緩やかに低下傾向を示していたことから、監視強化を継続するとともに、原子炉注水流量を3.5m<sup>3</sup>/hに変更し、水位の傾向を見ながら必要に応じて注水量を微調整する運用を実施。
- その後、水位が概ね安定していることを確認したため、今後は注水流量3.5m<sup>3</sup>/hで運用していくとともに、監視強化は7月16日をもって解除。
- 1号機の注水量やPCV水位の低減については、今後のPCV内部調査関連作業の進捗状況等をふまえ、2022年度以降に計画することを検討中。

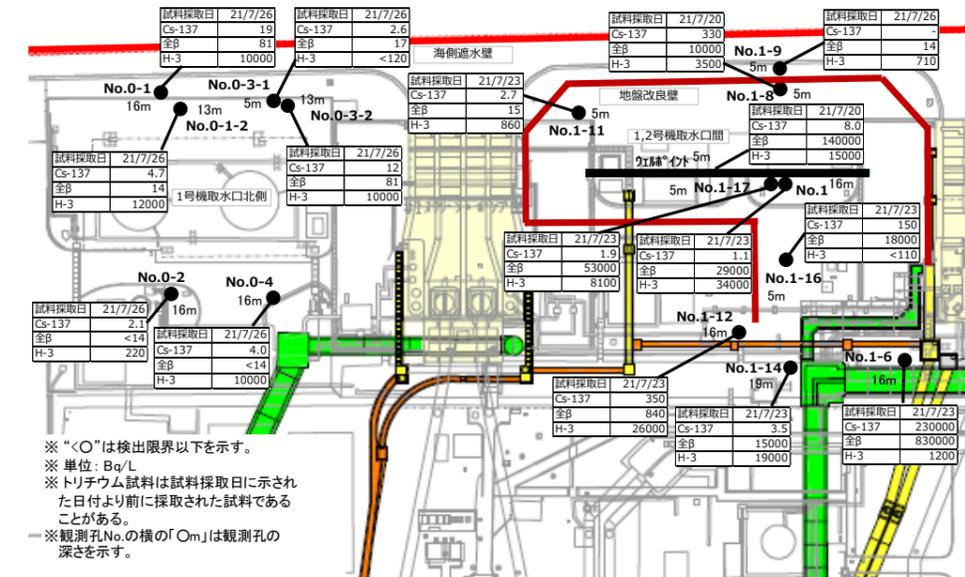
放射線量低減・汚染拡大防止

~敷地外への放射線影響を可能な限り低くする為、敷地境界における実効線量低減や港湾内の水の浄化~

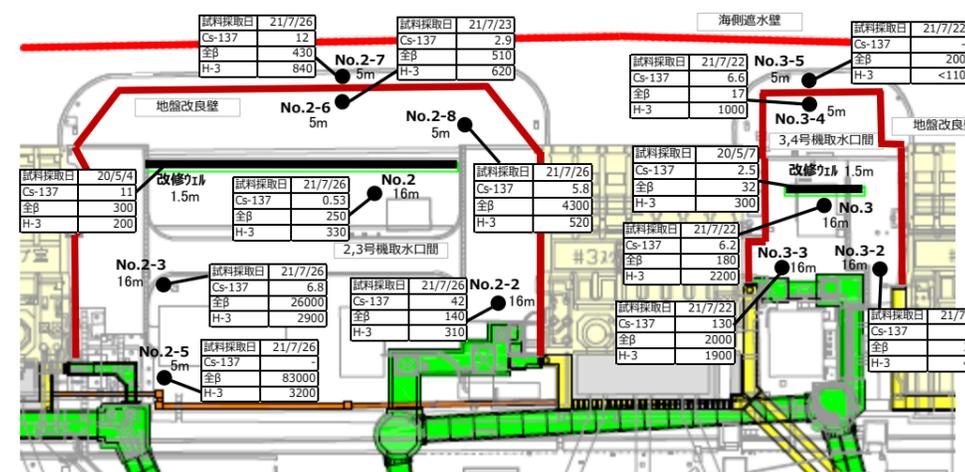
➤ 1~4号機タービン建屋東側における地下水・海水の状況

- 1号機取水口北側エリアにおいて、H-3濃度は、全観測孔で告示濃度60,000Bq/Lを下回り、全体としては横ばい又は低下傾向が継続。全ベータ濃度は、2020年4月以降に一時的な上昇が見られNo.0-3-2など上下動が見られる観測孔もあるが、全体的に横ばい又は低下傾向となっている。
- 1,2号機取水口間エリアにおいて、H-3濃度は、全観測孔で告示濃度60,000Bq/Lを下回り、No.1-14で上下動が見られたが、全体としては横ばい又は低下傾向の観測孔が多い。全β濃度は、全体的に横ばい又は低下傾向の観測孔が多い。
- 2,3号機取水口間エリアにおいて、H-3濃度は、全観測孔で告示濃度60,000Bq/Lを下回り、全体的に横ばい又は低下傾向が継続。全β濃度は、全体的に横ばい又は低下傾向の観測孔が多い。
- 3,4号機取水口間エリアにおいて、H-3濃度は、全観測孔で告示濃度60,000Bq/Lを下回り、No.3-3など上下動が見られる観測孔もあるが、横ばい又は低下傾向が継続。全β濃度は、全体的に横ばい又は低下傾向が継続。
- 排水路の放射性物質濃度は、降雨時に濃度が上昇する傾向にあるが、全体的に横ばい傾向。
- 1~4号機取水路開渠内エリアの海水放射性物質濃度は告示濃度未満で推移しており、降雨時に

- Cs-137濃度、Sr-90濃度が上昇。海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、濃度が低下。メガフロート関連工事によりシルトフェンスを開渠中央へ移設した2019年3月20日以降、Cs-137濃度について、南側遮水壁前が高め、東波除堤北側が低めで推移。
- 港湾内エリアの海水放射性物質濃度は告示濃度未満で推移しており、降雨時にCs-137濃度、Sr-90濃度が上昇するが1~4号機取水路開渠内エリアより低いレベル。海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、濃度が低下。
- 港湾外エリアの海水放射性物質濃度は、海側遮水壁鋼管矢板打設・継手処理の完了後、Cs-137濃度、Sr-90濃度が低下し、低濃度で推移。気象・海象等の影響により、一時的な上昇が観測される事がある。



<1号機取水口北側、1,2号機取水口間>



<2,3号機取水口間、3,4号機取水口間>

図5:タービン建屋東側の地下水濃度

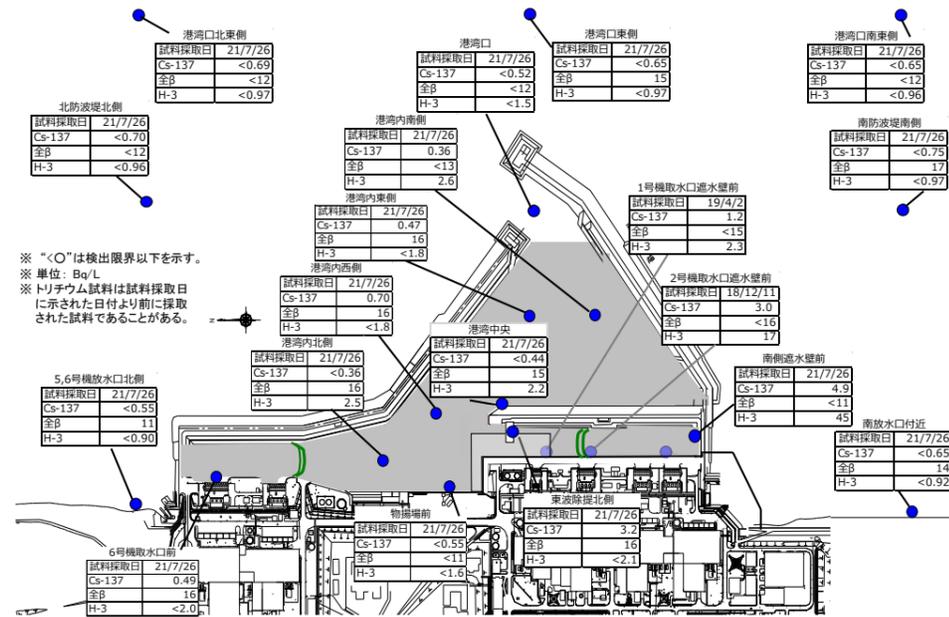


図6：港湾周辺の海水濃度



図8：作業員の月別個人被ばく線量の推移（月平均線量）  
（2011/3以降の月別被ばく線量）

**必要作業員数の見直し、労働環境、労働条件の改善に向けた取組**

～作業員の被ばく線量管理を確実に実施しながら長期に亘って要員を確保。また、現場のニーズを把握しながら継続的に作業環境や労働条件を改善～

➤ 要員管理

- 1ヶ月間のうち1日でも従事者登録されている人数（協力企業作業員及び東電社員）は、2021年3月～2021年5月の1ヶ月あたりの平均が約8,600人。実際に業務に従事した人数は1ヶ月あたりの平均で約6,200人であり、ある程度余裕のある範囲で従事登録者が確保されている。
- 2021年8月の作業に想定される人数（協力企業作業員及び東電社員）は、平日1日当たり3,800人程度と想定され、現時点で要員の不足が生じていないことを主要元請企業に確認。なお、至近2年間の各月の平日1日あたりの平均作業員数（実績値）は約3,000～4,200人規模で推移（図7参照）。
- 福島県内の作業員数は微増、福島県外の作業員数は増。2021年7月時点における地元雇用率（協力企業作業員及び東電社員）は微増で約70%。
- 2018年度の月平均線量は約0.20mSv、2019年度の月平均線量は約0.21mSv、2020年度※の月平均線量は約0.22mSvである。※2020年度の数値は暫定値
- 大半の作業員の被ばく線量は線量限度に対し大きく余裕のある状況である。

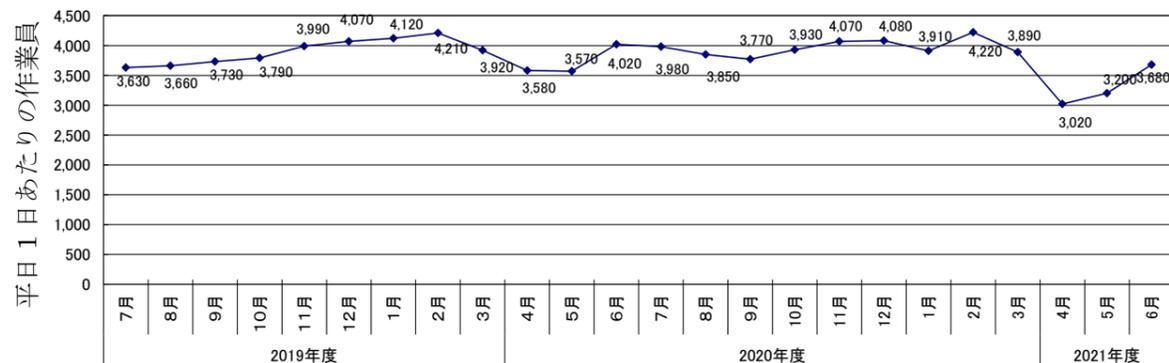


図7：至近2年間の各月の平日1日あたりの平均作業員数（実績値）の推移

➤ 福島第一原子力発電所構内におけるDS2マスク不要エリアの拡大について

- 1～4号機周辺防護区域外（5・6号機建屋内を除く）のGゾーン※の作業のうち、汚染している設備や機器を取り扱う作業ではなく、ダストが舞い上がるおそれのない軽作業や、装備交換所または休憩所間の車両での移動について、DS2マスクの着用を不要とすることで作業員の身体負担軽減を図る。 ※Gゾーン：一般服作業エリア
- 本運用は8月2日より開始する予定。
- 新型コロナウイルス感染症対策
- 2021年7月28日15時現在で、福島第一原子力発電所で働く東京電力HD社員及び協力企業作業員等の新型コロナウイルスの感染者は32名（うち、社員は4名）発生。一方、これに伴う工程遅延等、廃炉作業への大きな影響は生じていない。
- これまで、出社前検温の実施やマスク着用の徹底、休憩所の時差利用等による3密回避、黙食、県外への往来や会合への参加の自粛要請などの感染拡大防止対策を継続実施中。
- 2021年7月27日現在で、新型コロナウイルスワクチンの職域接種については、1回目は社員318名、協力企業作業員781名、2回目は社員3名、協力企業作業員30名が実施済。

➤ 福島第一における作業員の健康管理について

- 厚生労働省のガイドライン（2015年8月発出）における健康管理対策として、健康診断結果で精密検査や治療が必要な作業員の医療機関受診及びその後の状況を元請事業者と東京電力が確認する仕組みを構築し、運用中。
- 今回、2020年度第4四半期分（1月～3月）の健康診断の管理状況では、各社とも指導、管理が適切に実施されている状況を確認。また2020年度第3四半期分以前のフォローアップ状況の報告では、前回報告時に対応が完了していなかった対象者も継続した対応がなされていることを確認。今後も継続して確認を行う。

➤ 熱中症の発生状況

- 熱中症の発生を防止するため、酷暑期に向けた熱中症対策を2021年4月より開始。
- 2021年度は7月26日までに、作業に起因する熱中症の発生は2件（2020年度は7月末時点で、5件）。引き続き、熱中症予防対策の徹底に努める。